

令和4(2022)年2月25日

保護者のみなさま

枚方市立中宮中学校
校長 町田 弘明

令和3(2021)年度 学校評価に係る学校教育自己診断アンケート結果について

12月に実施しました学校教育自己診断にご協力いただき、ありがとうございました。

今回のアンケートでは、482人の生徒の保護者のうち、55.8%にあたる269人の方からオンラインを活用した形式でご回答をいただきました（昨年度は88.2%）。全校生徒対象のアンケート結果とともに、今年度の教育活動を検証する貴重な資料として活用し、本校教育の充実を図ってまいります。

《アンケート結果の概要と分析》

回答「A あてはまる」、「B どちらかというにあてはまる」を合計して肯定的回答、「C どちらかというにあてはまらない」、「D あてはまらない」を合計したものを否定的回答とし、回答数に対する割合を算出して比較、分析を行いました。

結果の分析の中の数字は、基本的に「肯定的な回答(AとB)」の割合を提示しています。

※◆…生徒アンケート ◇…保護者アンケート

※()の数字は、%は昨年度R2の結果です。★は今年度新しく加えた質問。昨年データがありません。

※在籍生徒数は482人(1年166人 2年171人 3年145人)

生徒アンケートで1%は学年では1~2人、全体では4~5人にあたります。

1. 生徒の様子と学校生活

◆学校に行くのは楽しい	90.6%(90.8)
◇子どもは学校に行くのを楽しみにしている	84%(89.3)
◆自分には良いところがある	78.3%★
◇子どもは自分に良いところがあると思っている	87.7%★

長引くコロナ禍のもと、臨時休校や楽しみにしていた行事の延期や変更などが続いています。そんな中でも、生徒たちの大半が、学校で友達と顔を合わせて一緒に学ぶことに喜びを感じていることや、いろいろな期待をもって学校に登校しているということがアンケート結果に表れています。

一方で、学校生活に対して否定的な回答をしている生徒が9.4%(クラスに3~4人)いることや、コロナ不安や不登校などで学校に来られない生徒が、増えてきていることが、今の大きな課題です。

ひとりひとりの生徒の背景に寄り添い、生徒が「学校に来てよかった」「学校に行くと元気になる」という実感が持てる学校、すべての生徒が楽しいと思える学校生活の実現に向けて取組みを進めます。

学校に来られない生徒の背景には、心身の健康状態など、これまでそれぞれの事情がありましたが、最近ではコロナ禍による影響など新しい問題も起きており、一人一人の状況に応じた対応がこれまで以上に求められる状況です。学級担任や学年教職員、養護教諭だけでなく、スクールカウンセラーや不登校支援員、外部機関なども保護者と連携して、組織的に生徒の支援に取り組めます。

2. 学校生活の様子

- ◆生徒会行事や委員会活動、学級活動に積極的に参加している 88.6%(94.5%※クラブ活動含む)
- ◆毎日のそうじは、まじめに責任をもって取り組んでいる 97%★
- ◆学校生活のルール(服装や持ち物、チャイム着席等)を守っている 99.3%★
- ◆自分からあいさつしている(心がけている) 91.1%★

時期も行先も変更、1泊2日になった3年修学旅行や、オンラインで実施した文化祭、全学年一緒に実施したものの内容をコンパクトにした体育祭など、コロナ禍で経験したことが無い形での学校行事でしたが、「みんなで楽しむことを大切にできる」のが中宮の生徒の一番の宝、大切にしたい大きな力です。

そしてその力は、行事の時だけで育つものでなく、日ごろの生徒会や学年の委員会活動、日々の学級活動など通じて毎日の「あたりまえのことを、あたりまえにする姿勢」を大切にしているからこそ、育ってきたものです。これからも、日常生活のあたりまえを大事にする中宮中の力を発揮しましょう。

3. 授業の取組み

- ◆落ち着いた雰囲気の中で集中して授業を受けることができている 74.8%(71.1)
《3年 86% 2年 76.9% 1年 62.8%》
- ◇学校は落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている 78.4%(81.6)
- ◆授業はわかりやすい 92.1%(93.5 ※「わかりやすく工夫した先生が多い」)
《3年 94.2% 2年 91.8% 1年 90.5%》
- ◇先生はわかりやすい授業づくりに努力している 86.6%(89.8)
- ◆授業では、「めあて(目標・ねらい)」が示されている 99.3%(99)
- ◆授業では自分の考えを深めたり広げたりすることができる 90.6%(94)《78》
- ◆授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っている 91.9%(90.5)
- ◆授業で学級の友達と話し合う活動では、話し合う内容を理解し、相手の考えをよく聞き、友だちの考えを受け止めて、自分の考えをしっかりと伝えていた 95.6%《84》
- ◆授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した 89.1%《62》
- ◆自分の思っていることや感じていることをきちんとことばで表すことができる 82.5%《75》
- ◆自分とは違う意見について、聞いたり、考えたりすることは大切だと思う 99.5%《75》
- ◆授業では、わからない課題にぶつかった時、ノートや教科書などを調べたり、友だちや先生に質問したりするなどして、わかろうと粘り強く取り組めた 90.4%《81》※

※全国学テ質問「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との比較

★《 》の数字は、今年度の全国学力・学習状況調査での 全国の3年生の肯定回答%です。

「授業でわかったはずなのに、テストではできない」「初めての問題は、取り組もうともしない」「説明する問題は、無回答が多い」というのが、これまでの本校の大きな課題でした。そこで本校では、「説明されたことを覚える授業」「教えられた通りに問題練習をする授業」から、「自分で考える授業」「わからない課題に取組み、調べたり、友だちと学び合ったりして答えを導き出す授業」への転換に取り組んでいます。自分たちで学び合う経験を通じて、初めて目にする問題でも、粘り強く取り組み答えられる力を育てるのが第一目標です。さらに、各教科では、ことばの力を育てる振り返りやレポート課題、教科外では言語力と社会への関心を育てるために総合的な学習や「トライジャパニーズ」にも取り組んでいます。

こうした取組みの結果、全国学テ結果との比較に表れているように、生徒たちに学ぶ力が育ってきています。これからも、大きく変化する社会を生きていくために必要な「学力」を、育てていきます。

4. 家庭での学習

◆家で学校の授業の予習や復習をしている	57.3%(65.4) 《3年62.8% 2年56.5% 1年53.3%》
◆家で自分で計画をたてて学習をしている	57.3%(56.9) 《3年60.3% 2年61.2% 1年50.4%》
◆教科の提出物や課題は、期限を守って提出している	81.7% ★ 《3年84.3% 2年81.6% 1年79.6%》
◆普段(月～金)一日当どれくらいの時間学習をしていますか(塾を含む)	1時間以上 61.2%(54.9) 2時間以上 27.2% 1時間以上 34.1% 30分以上 18.5% 30分未満 20.2%
◎「家庭学習ほとんどしない又は全くしない」=30分未満 3年14.9%(25) 2年18.4%(13) 1年27%	
◇子どもは家庭での「学習」の時間を決めている	47.2%(46.5)
◇子どもは家で、学校の授業を復習している	48.3%(48.5)
◇子どもは家で、自分で計画を立てて勉強している	48.7%(47.4)

家庭学習に対する姿勢は、「2極化」といえる状況です。以前より時間をかけて家庭学習に取り組む生徒と、ほとんど家庭での学習をしない生徒に分かれており、1年生では学習時間が30分未満の生徒が4人に1人を超えています。これでは、学習の定着はもちろん、授業の取組みにも支障が出てしまいます。およそ5人に1人の生徒が、提出物の期限を守れていないと自覚しているのが現状です。

各教科では、授業での学習に必要な「課題(宿題)」を出し、評価していますが、それに加えて、それぞれの力に応じた家庭学習が必要です。特に、学んだ内容を自分で確かめ、自分の力に応じた問題を解く練習をするなどの「復習」は絶対に必要です。また、「予習」をすることで、授業での学びは大きく向上します。ただ授業に参加し、宿題を提出すれば十分だという生徒の意識を変えなければいけないと考えています。そのためには、「自分で考え、できるようになりたい」という意欲の向上が一番の課題です。

学校では、明らかになった状況を踏まえて、生徒たちが、家庭での学習の大切さを理解し、主体的に家庭学習に取り組むことができるように、課題(宿題)の量や質を工夫するとともに、「予習したくなる授業」、「復習の大切さを自覚する評価」の充実などに取り組んでまいります。

ご家庭でも、宿題など受け身の学習にとどまるのではなく、自主的に学習する気持ちを育てる声掛けや、学習に集中できる環境をつくるなど、まずは毎日の家庭学習習慣づくりに取り組んでください。

5. 子どもたちの意識、「人権意識」など

◆いじめは、どんな理由があってもしてはいけないものだと思う	98.8%★《95.9》
◆自分の住む地域や社会をよくするために、何をしたら良いかを考えることがある	60.7%★《43.8》
◆将来の職業や生き方について考えたり、話したりして、取り組もうと思っていることがある	82.7%★《68.6》
◆新聞(Try Japaneseのコラム、タブレットの中学生新聞を含む)を読んでいる	72.3%
◆命の大切さや、人権について学んだり考えたりすることは大切だと思う	99.5%★
◆地震や台風、火災などが起こった場合、どのような行動をすべきかがよくわかっている	94.6%★
◇いじめ問題や社会で起きている問題などについて、子どもとよく話している	87.4%★
◇子どもとは、本当に悩んだ時や困った時には相談できる関係ができています	91.8%★
◇子どもと、学校生活や友だち関係など、一日のできごとを話す時間を持っている	81.0%★

多くの生徒が、いじめを許さないなど正しい人権意識を身につけ、友だちとの好ましい関係を築きたいという気持ちでいます。今後は、社会と自分を結び付けて考え、行動する総合的な学習、将来の生き方をイメージして自分の課題を考えるキャリア教育、命を守る防災教育について、さらに充実を図ります。「生きる力」は、ご家庭での会話や関わりが原動力、ぜひ子どもと話す時間を持ってください。

5. スマホ、SNS との関わり方

- ◆普段(月～金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、ゲームや動画視聴、SNS のやりとりをしていますか
3 時間以上 38.0% 2 時間以上 27.2% 1 時間以上 22.7% 1 時間以内、無し 9.1%
- ◆携帯電話・スマートフォン・コンピューターの使い方について、家の人と話したことを守っている
守っている 67.4% だいたい守っている 27.9% やや守っていない 2.2% 守っていない 2.1%
- ◇子どもは、携帯電話やスマートフォンの使い方のルールやマナーを正しく守っている 68.4%(57.6)

一人一台のタブレットが配られ、オンラインでの授業や課題提出が当たり前の学校生活になって一年が経ちました。ご家庭で買い与えられたスマホを持つ生徒も増えており、情報のやり取りや、情報の入手が簡単になる一方で、視力や集中力の低下、依存など健康への悪影響やトラブルに巻き込まれる危険性が高まっており、とても心配な状況です。

学校が貸与しているタブレットについては、フィルターをかけ、アクセス記録を監視するなどの対応をとって、子どもたちを守る取組みをしていますが、ご家庭のスマホ、パソコンなどのセキュリティはどうなっているのでしょうか。

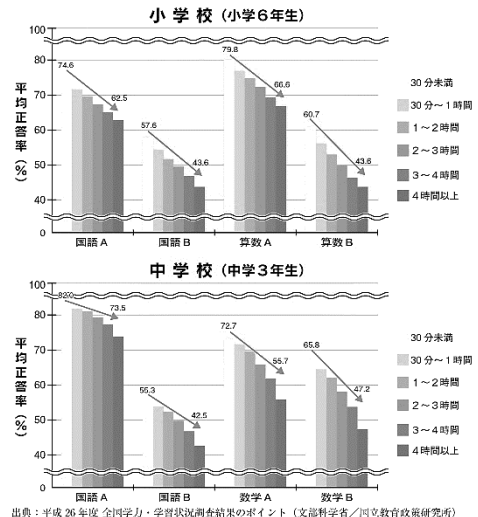
ルールやモラルに関して、「子どもの自主性に任せ、自己申告を信じる」のではなく、フィルターをかけて有害情報から子どもを守る努力義務が、条例で定められています。

学校では、これからも篠原嘉一先生の SNS 講演会など SNS との関わり方についての学習に取り組めます。ご家庭で

も、フィルターをかけ、使用状況をチェックして不適切な使用を見逃さないなど、持たせたスマホを子どもが正しく使っているか、日常的に見守って、子どもたちを守っていただきますようお願いします。

なお、スマホ、携帯電話の学校持ち込みは、禁止していますので、ご協力をお願いします。

スマホを使うほど、学力が下がります。



生徒用質問の肯定的回答の割合	2021	2020	保護者用質問の肯定的回答の割合	2021	2020
朝食を毎日食べている	90.9	★	子どもは、学校行事や学級活動、部活動に積極的に参加している	90.7	94.2
授業や給食で食の大切さ(重要性)を学んでいる	93.6	86.3	先生は子どもの意見や考えを大切にしている	85.9	89.7
学校図書館の利用や課題学習などで、新聞や本などを読む機会が多い	72.3	68.1	子どもが興味を持ち、意欲的に取り組んでいる教科がある	81.4	83.0
先生は自分たちの意見や考えを大切にしてくれる	98.3	95.5	子どもは、悩みなど、相談できる先生やスクールカウンセラーがいると言っている	59.5	77.8
担任の先生は、よりよい学級を目指して努力している	99.0	97.8	子どものことについて相談できる先生やスクールカウンセラーがいる	73.2	77.8
先生は困っている時にいつでも相談に乗ってくれる(学習でわからないところを教えてくれる)	97.5	94.8	学校は、子どもに将来の進路や生き方について学習する機会を設けている	79.9	81.8
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている	93.6	96.0	学校は、子どもに命の大切さや人権について学習する機会を設けている	89.6	92.9
授業でよくタブレットを使っている(毎日)	96.3	91.4	学校は、防災について学習の機会を設けている	79.6	80.0
タブレットを使った授業はわかりやすい	86.4	★	ホームページ(ブログ)などを通じて学校の取り組みや子どもの様子を積極的に発信している	89.6	81.3
Try Japanese の課題に取り組んでいる	82.0	★	学校諸費(教材費等)の内容や額は適切である	91.8	93.3
家庭でよくタブレット(ドリルパークなど)を使っている	44.9	★	子どもはタブレットを活用した授業はわかりやすいといっている	80.3	★
借りているタブレットは、ルールを守って使っている	99.3	★	タブレットなどの ICT 機器を使ったわかりやすい授業を行っている	86.6	★
本文の中に掲載していない質問と回答傾向			タブレットで家庭学習課題が出されている	92.2	★
			子どもは家庭での「学習」の時間を決めている	47.2	46.5
			子どもと食事や栄養、健康的な生活習慣に関する話をしている	86.6	★

【保護者アンケートに寄せられたご質問やご意見について】

○中間、期末テストなどの平均点を出して欲しい。

○やはり、テストを受ける上で本人の将来のための目標点か学年の平均点をだすべきです。

※同様の内容が他に9名の方から寄せられました。

●今年度全面実施された学習指導要領の説明(下に参考として掲載)にあるように、私たちはこれから大きく変化していく社会を生きていく生徒に、「主体的に学ぶ力」を育てなければならないと考えています。そのために定期テストも、授業で学んだことを、一人一人の生徒が何を身につけられて、何がまだ課題なのかを具体的に評価するために行っています。生徒自身が、テストの結果から自分はどんな学習が必要なのかを考え、自ら学習の改善に取り組めるように、テスト後の指導も到達目標に照らして取り組んでいます。

そして、何のために定期テストをするのかを生徒たちに正しく伝えるために、今年度から、平均点の公表をやめました。以前から平均点を公表すると、「平均点と比べて、頑張ったかどうかを考える」という生徒が多く、「平均点を上回っていると力がある」「平均点が低いから、自分もできなくて当然」と判断してしまうなど間違った判断をさせてしまう問題がありました。本来意識して欲しい学習の到達目標とは無関係なのに、平均点を公表することは、「人と比べる」ことをすすめるように伝わってしまい、私たちが大切にしようとする「主体的に学ぶ力」を育てる取組みとは、全く違ったことを指導していることになってしまうのです。「言っていることと、やっていることが違うのは、いけない」、そう考えて、改めることにしました。

これまで、通知票や指導要領の観点別評価、入試に関わる調査書などにも記載する評定も全て、「目標に対してどこまで到達しているか」という『目標準拠評価』の方法で伝えていました。テストの結果もこの考え方を徹底することで、子どもたちの「学ぶ力」を育てる取り組みを確実に進めることにしたのです。

今後、目標点を示したり、テストの採点を単元別、観点別の到達度がわかりやすいように工夫したりするなど、生徒一人一人が、自分自身の課題を理解できるよう評価を充実させるとともに、「主体的に学ぶ力」を育むための単元計画の提示や振り返りなど授業指導力の向上に、さらに取り組んでまいります。

(参考) 『改訂に込められた思い』より抜粋

学校で学んだことが、子どもたちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。

そして、明るい未来を、共に創っていききたい。

2020年度から始まる新しい「学習指導要領」には、そうした願いが込められています。

これまで大切にされてきた、子供たちに「生きる力」を育む、という目標は、これからも変わることはありません。

一方で、社会の変化を見据え、新たな学びへと進化を目指します。

文部科学省のホームページ「平成29・30・31年改訂学習指導要領について知りたい」より

○子どもが毎日のように授業中の教えてもらい方に悩んでいます。先生方が言う学習指導要領とはなんですか？自分達で勝手に学んでいくことなののでしょうか？疑問に思っています。

●「学習指導要領」とは、文部科学省が全国どの地域で教育を受けても一定の水準の教育が受けられるようにするために、法律に基づいて定めている学校教育の取組みの基準です。

これまでおよそ10年に一度改訂されており、今年度は、平成29・30・31年の改訂指導要領が、中学校で全面実施されました。「アクティブラーニング」や「対話的で、主体的な深い学び」という言葉をお聞きになったことがある方もいらっしゃるかもしれませんが、授業の方法や学習の評価、特別の教科道德等教育活動が大きく改訂されました。今回の改訂は、今後の社会変化を見据えた大改革と言われています。

上に参考として掲載させていただいたように、この改訂学習指導要領に定められている「新たな学び」

への進化をめざす取組みは、本校でも「枚方の授業スタンダード」を踏まえた「中宮中授業スタンダード」や「単元計画の教室掲示」など、改定内容の発表時点から始めてきました。「学習班」を活用した学び合いの授業は、いろいろな授業で定着し、今の中宮中の落ち着いた状況を実現する大きな土台になっています。

本校ではこうした土台の上に、授業を子どもたちが「主体的に学ぶ力」を身につけられる形態へと転換を進めています。改訂指導要領で、これからの予測困難な時代でも子どもたちが生きられる力として「主体的に学習に向かう態度」を評価することになったことに対応する取組みでもあります。

あえて、これまでのようにていねいに説明して教えるのではなく、自分たちで学ぶ場面を作り、その経験を通じて、学びに向けての意欲を高めることを目指しています。私たち教師も、経験したことがないような授業づくりに、想像力を働かせ、新しい教材作りや、授業展開の工夫などを研修や研究授業で互いに学びながら取り組んでいるところです。まだまだ未完成なところが多いですし、授業者による取組みのばらつきがあるために、戸惑う場面がある状況かとは思いますが、この授業改善は子どもたちの未来のために私たち教師も互いに学び合いながら、絶対にやり遂げなければならないことだと考えています。

コロナ禍対応に追われて、説明が不十分であったために、生徒や保護者の中には不安を感じられた面があったと反省しておりますが、今後、取り組みの様子をお伝えする場面を充実させるとともに、何より子どもたちの意欲を高められるよう指導力の向上をすすめてまいります。ご理解とご支援をお願いします。

●同じ枚方市内でも学校によって教育方針が違いすぎると感じる。通知表の付け方など中宮では〇点以上でないと5が絶対につかない、ある程度の仕上がりの提出物を出しても中宮はAは中々つけないと公言されている。公立でこれ程まで格差があると地域差別に繋がる。子供はがんばっても無駄だと思いつつ始めている。ある程度枚方市内での基準を設けるべきでは。

●レポートなどの評価のウエイトが高くなるのであれば、評価の基準を明確にしていきたいです。子どもがなぜ、Bなのか聞きにいったところ、Aじゃないからと言われたらしく、次回どこを直せばいいのか、どの点を頑張ればいいのか分かりません。次の意欲につながるご指導よろしく願いいたします🙏

○ 学習評価は、学習の改善や意欲の向上につなげることを目的に行っていますが、そうした目的とは違った受けとめがあるということは、新しい学習評価についての説明が不十分であったり、取組みに課題があったりすることが原因であると受けとめ、改善に取り組んでまいります。

特に、定期テストでは測れない「主体的に学習に取り組む態度」については、授業の取組みやレポートなど提出物の内容をもとに評価していますが、自分のどういった点が課題なのかをわかりやすく伝えるなど、下記の観点を損なうことなく、意欲を育てることができるよう指導の工夫に取り組んでまいります。

※「主体的に学習に取り組む態度」については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、②自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。「学習評価の在り方ハンドブック」国立教育政策研究所より

本校の評価は、学習指導要領に則って枚方市教育委員会が示した評価の規準の基づき、枚方市内の中学校で共通の基準で通知票の「評定」や観点別の「評価」を算出しています。この算出基準は、学年の始めに配布している「シラバス」に掲載しています。(参考のため、この資料にも掲載させていただきます。)

具体的な評価の材料や方法については、シラバスに示すとともに授業で基準を説明するなどしておりますが、わかりにくい場合は教科担当に質問してください。説明させていただきます。

○家で勉強をしないので課題を増やしてもらいたいです

○塾に行くのが当たり前の時代になり家での宿題が少ない為自主的に復習が全く出来ていないと感じます。

- 生徒には、各教科から授業の内容や進度を考えて、次の授業までにやるもの、単元のまとめとしてやるものなど様々な課題を与えています。問題集など試験範囲の内容を計画的に取り組む力を身に付けることをねらいとする課題や、自分でテーマを決めて探求するレポート課題などもあります。提出期限の直前にあわててこなすだけになっていたり、丸写しをしていたりする生徒もいるようです。

学校では今、新聞のコラムを教材にした「トライジャパニーズ」や、週末宿題などにも取り組んでいます。今後も、生徒たちの課題と状況を踏まえた方法で、自主学習力の育成に取り組んでまいります。ご家庭でも学習時間を決めて協力するなど環境を整え、授業の復習や予習、自主学習などに自分で取り組む習慣を身につけられるよう取り組んでいただくようお願いいたします。

いつまでも「与えられなければ学べない」ままで終わらず、毎日すすんで学ぶ習慣をできるだけ早く、できれば1年生のうちに身につけておくようにすることが必要です。どんな学習に取組めばよいかなど、一人一人にあった学習方法についても、担任や教科担当に遠慮なくご相談ください。

○学習については、タブレットやICT機器ばかりで目が心配です(本人も親も)。もっと黒板を利用しノートに書くことをさせてください。

- 日常的なタブレットやICTの使用について、ブルーライトの影響など健康への悪影響を心配されるということは理解しております。ICTを効果的に使うことと同様、ノートを使うことは学習効果の面でも大切なことです。バランスを考えた授業を心がけてまいります。

○私立でもないのに、服装の規定がありすぎです。公立とは思えないほどの指定でびっくりしています。

○もう少し生徒に寄り添った態度で接してほしい。威圧的に話されると何も聞けなくなると思います。

○生徒に指導や注意等している事はどんな内容でもしっかり先生方もきちんと守ってください。子どもから聞いていると自分自身に甘く生徒達には厳しいと感じます。

○生徒に対して厳しい指導をお願いしたい。

○中宮中学は最低のレベル。全然子ども見れてない。

○子供が学校に行けていないのに先生は何も対処せず子供をほったらかして、学校に登校させようとしない。電話もない、様子を見にこようもしない。来なければそれはそれでいいと思っている。と感じられる。学校に行けていない子をほったらかしている。

- 生徒指導においては、子どもが十分に理解することができるようにして、傷ついたり、理不尽だと感じたままになったりすることが無いようにしなければなりません。しかし、今回のご意見のように指導に課題があったと考えられる対応があったことについて、重く受け止め、今後改善に取り組めます。

子どもたちのためにも、今後もし問題を感じられる点があった場合には、学校まで直接お伝えいただき、話し合っ具体的解決していきたいと思ひます。学校と保護者が理解し合ひ、連携して子どもを健やかに育てていくことを大切にしたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

今後も、中宮中学校が落ち着いた環境の中で、色々な個性のある生徒たちが、安心してのびのびと学び合える場であり続けられるよう、バランス感覚を失わない生徒指導を進めてまいります。

○△△の授業方法などわかりにくいと言ひています。…勉強が出来ないのはお前達の頭が悪いからだ。など子供達が傷つくような言葉を発したと聞きました。子供達の態度にも問題はあるのかもしれないが授業内容も生徒に丸投げプリントを配るだけなど指導方法にも問題があるのではないのでしょうか。

- 授業態度や課題の取組み姿勢についての教師の指導が、生徒にこのような内容で伝わっているのは問題

です。今後はなぜ指導されたのか、具体的に何をどう改めるのかが伝わるようにいねいに指導するように改善を図ります。授業の方法も、「主体的な学び」を目指して工夫をすすめています。生徒が「学び」を実感し、意欲をもって主体的に学習できるように、さらなる改善に取り組んでまいります。

○事情はわかりかねますが…部活動廃部の件は中学校存続のためにももっと慎重に考えたほうがよろしいかと思えます。

○各部活動などに専門顧問などを検討していただけたらありがたいです。

○…ただ一つ残念なこと、ホームページでもう少し生徒の活動、活躍を掲載していただきたいと思っております。本人達は日々生懸命△△の練習に打ち込んでおりますが、なかなか校長先生からお褒め頂く機会もないこともあり、一時期、自分達は必要ないのではないかと思います。悪い時にご指導を厳しくしていただくのは大歓迎ですが、子供達の成功もほめて頂けたらと常日頃思っております。私自身教職に就いておりますが、僭越ながら子供の成功を誉めることが生徒、学級、学年集団の成長につながると思っております。大変失礼とは思いますが、親としての想いを述べさせていただきます。

○クラブの仲間との気持ちの温度差に悩んでいる様子がみえます

●部活動については、多くの生徒が楽しみにしているうえに、人格形成にとっても大きな意義のあるものであると考え、本校においては原則すべての教師が顧問となって、現有の部活動を維持しております。教員の経験も違い、指導の専門性には差があるかと思いますが、部活動指導員の協力を得ながら、技術や試合の勝敗だけでなく、部活動を通じて社会生活に必要な経験をして欲しいと思い、指導にあたっているところです。部の存続については、生徒数減少の傾向をうけて、教員配置状況を踏まえて判断しています。

近年、部活動についての生徒や保護者のニーズが多様化する一方、新たな教育課題や働き方改革など教員を取り巻く環境も大きく変化しており、全国レベルでも部活動指導の在り方について、見直しが求められている状況です。今回いただいたご意見も、本校での今後の部活動指導の在り方を考える参考にさせていただきます。

○2年生ですが、進路について子供に話しているのですが、学校では進路について先生方から話をし下さる機会はないのでしょうか？

●2年生では、3学期に一斉の進路学習の時間を設けています。また、2学期の教育相談では進路についての生徒からの質問について相談も行っています。これからも、特に設けた時間に限らず、進路についての相談も含めて何でも相談してもらえるように、生活アンケートや教育相談を充実させてまいります。また、今後は1年生の時から、卒業後を見据えた進路学習の取組みを充実させます。

○アンケートの設問が疑問です。

●質問の内容が、お気に障ったようで申し訳ありません。コロナ禍で学校の状況を見ていただく機会が無い中で答えにくい質問もあったかと思えます。枚方市教育委員会が定めた共通質問、学校独自に子どもとの関わりについて考えていただく機会とする意図で考えた質問などもあり、貴重な時間をさいて、たくさんの質問に答えていただき、ありがとうございました。一つ一つ、これからの取組みを考える資料にさせていただきます。

《その他にいただいたご意見を紹介します》

○毎日笑顔で学校に行ける環境のありがたさを深く感じた一年でした。コロナ禍で色々な行事や経験や体験が出来ない状況が多くある中でも学校生活を楽しくしている様子を間近で見ていて嬉しく思っ

ています。二年生になり担任の先生への信頼が強く、子供からの話からもそれがよく感じられます。先生にはホントに感謝しています。来年は三年生です。色々不安なこともあるようですが、また引き続き笑顔いっぱい学校生活を送ってくれることを願っています・・・中宮のラグビー部にはこの一年親子で沢山の元気をもらいました！子供と共に応援しています！！

○担任の先生は明るく、ポジティブで子供にとっても良い影響を与えて下さり、心から感謝しております。中宮中学校の文化祭のDVDは感動しました。素晴らしいです。中宮中学校に行けて良かったです。ありがとうございます。

○いつもお世話になっております。コロナ禍ということで、参観等に行くことができませんでしたが、担任の先生が頻りに学級だよりを作成配布してくださったお陰で、クラスの雰囲気や担任の先生の子どもたちへの熱い思いを知ることができ、安心・信頼しております。今後もどうぞよろしく願いいたします。

■アンケートにいただいたご意見、ご質問を、個人情報に配慮して抜粋して掲載させていただきました。

《参考 2021年度 シラバスより》

<本校における通知表評価の方法>

大阪府公立高等学校入学者選抜で目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)が導入されることに伴い、枚方市では通知表の形式及び評価の算出基準を市内の中学校で統一しています。この評価方法は、各教科が設定した評価の観点及び評定(総括的評価)の到達目標に照らしてその実現状況をみるものです。

【観点別学習状況評価】

◎A, B, Cの記号により3段階で評価します。

A:十分満足できる … 観点ごとの満点の 75% 以上

B:おおむね満足できる … // 40% 以上

C:努力を要する … // 40% 未満

【評定】

各観点の観点別学習状況評価を数値化し、その合計点と観点別得点合計の両方を考慮して算出する。(両方の数値ともに満足することが必要)

①ABCの数値化 A:3点 B:2点 C:1点

②両方のカッティングは以下のとおりとする。

評価	内容	観点評価合計	観点別得点(素点)合計
5	十分満足できるもののうち、特に程度が高い	9点	85%以上
4	十分満足できる	8点以上	75%以上
3	おおむね満足できる	5点以上	40%以上
2	努力を要する	3点以上	
1	一層努力を要する	3点	20%未満

※各教科の評価材料については、「シラバス」(授業の大まかな学習計画のこと)を参照

【3学期の通知表】

3学期の通知表は、観点別学習状況評価及び評定ともに年間を通しての評価となります。また「総合的な学習の記録」「行動の様子」についてもあわせて記載します。